■中学生の部　最優秀賞

荒海中学校３年
大竹 美夢（みゆ）　さん

美夢さんの主張：
「ありがとう」

あなたは誰に「ありがとう」を伝えたいですか。それは、どんな「ありがとう」ですか。今、世界全体を見て考えたときに、私たちが「ありがとう」を伝えなければいけないのは、新型コロナウイルスと最前線で戦っている医療関係者の方々だと思います。他にも、私たちの身近にいる友達や家族など、「ありがとう」を伝えなければいけない人はたくさんいるはずです。

皆さんは普段きちんと周りの人に「ありがとう」を伝えられていますか。まだ伝えられていない「ありがとう」はありませんか。私には、伝えたくても伝えられない「ありがとう」が一つだけあります。

私は小学校入学直前に、大切な家族である父を突然の事故で亡くしてしまいました。まだ幼かった私ですが、この知らせを聞いたとき、頭が真っ白になり、信じることができませんでした。この日、父が出掛けるときにかけたのは、「またね。バイバイ。」という言葉でした。この「またね」と言って別れたあの日の「またね」と約束した日は、もうどこにもありません。もっとたくさん話を聞いてもらいたかった。もっとたくさん遊んでほしかった。そんなことを今となっては思います。父との思い出がずっと頭を駆け巡るとき、いろいろな場面が思い出されます。保育園に迎えに来てくれたこと、魚釣りをしたこと、バーベキューをしたことなど、数えきれないほどたくさんの思い出がありました。思い出をたどればたどるほど、わき上がってくる思いがありました。それは、父に「ありがとう」を伝えていない、伝え切れていないという思いです。いくら幼かったとはいえ、「ありがとう」と言う機会はたくさんあったはずです。それなのに、私はきちんと父に対して、「ありがとう」を伝えることができていなかったのです。今、父を思うとき、そのことが後悔として心に浮かんできます。

皆さんの身近にも、「ありがとう」を伝えるべき人はたくさんいると思います。仲良くしてくれる友だち、いつも側で温かく見守ってくれている家族など、当たり前のように一緒にいる存在だからこそ、気づかない「ありがとう」がたくさんあると思います。私は、このことに気づいていたら、父に「ありがとう」を少しでも伝えられていたかもしれません。幼かった私にとって「ありがとう」は特別なときの言葉で、いつも一緒にいてくれる家族に対して使う言葉ではなかったかもしれません。中学三年生になった今、「ありがとう」の本当の意味を知り、身近な人にもしっかり伝えられるようになりました。

「ありがとう」。その言葉はいつも身近にあります。しかし、身近にあることが当たり前になってしまうと、使わないままになってしまい、本当に伝えたいときに、伝えるべき人がいない。そんな辛い思いをしてしまうのです。私のように…。

今、当たり前のことが当たり前にできない生活が続いています。こんなときだからこそ、身近にいる人への何気ない「ありがとう」を大切にしていきましょう。そうやって、お互いが気持ち良く生活できる環境を作っていきましょう。そして、伝えられなかった「ありがとう」がない、そんな生活をしていきましょう。

今あなたは誰に「ありがとう」を伝えたいですか。それは、どんな「ありがとう」ですか。私は、父に「私、元気に頑張っているよ。いつも見守っていてくれてありがとう。」と、心の底から伝えたいです。そして、いつも側にいてくれる家族や友だちに、「いつもありがとう」という気持ちを素直に伝えたいです。

■高校生の部　最優秀賞

田島高等学校３年
小沼 結衣（ゆい）　さん

結衣さんの主張：
「生きやすい社会って？」

約十人に一人。これは日本におけるセクシュアルマイノリティ、いわゆる性的少数者の割合である。そしてこの数字は、左利きの人の割合と同じであると言われている。しかし、左利きの人のようにセクシュアルマイノリティの人を見かけることはあまりないと感じた。そこには社会の風潮があるのではないか。そう考えた私は、今回この青少年の主張を通して、自らの意見を発信することを決めた。

かつては「疾患」とされていた同性愛であるが、近年はＬＧＢＴという呼称で、社会的にその存在が広く認知されつつある。しかしそれは、あくまでも認知であり、理解ではない。社会に充満する、異質性を極端に嫌う文化、そしてその空気。それは同性愛者にとって実に生きづらい世の中を構築しているといえる。

同性愛者が普通と異なるという見方は異性愛者を普通としたときの相対的な見方である。私は、人間は相対性の上に存在する生き物ではなく、絶対的な生き物であると考えている。自らの存在を確立するために、他者との比較は不必要で、唯一無二の存在である自分を自分が認めることで存在できるのだ。ゆえに、異性愛者も同性愛者も、お互いを異として認識するのではなく、自らを絶対的な存在として尊重しながら、他者の価値観を咀嚼し受け入れることによって、誰もが生きやすいと感じる社会になっていくのではないだろうか。そして、他者と自分の価値観を共に尊重できるようになれば、異質性を多様性として捉えて受け入れられるような、物事を広い視野で多角的に見ることのできる人間になるのだと思う。そのような人が、これからの社会で増えていけば、同性愛者がマイノリティであるという認識自体が薄れていって、異性愛者と同性愛者の間にある壁もなくなっていくと考える。

これから先、何がフツウで何がフツウじゃないかなんて、考える方がナンセンスだ。性別や恋愛感情の向く相手による違いだったら、なおさら。性別なんて、ただのアクセサリーでいいじゃないか。アクセサリーなんて、自分の自由でいいじゃないか。生まれ持ったアクセサリーに囚われて、自らの幸せを制限されるなんて、あってはならないことなのだから。

私が題名で掲げた「生きやすい社会」について、それはこれからの日本が向かっていくべき未来である。人と人との間で生まれる偏見、差別、価値観の相違による争いなど、あらゆる障壁を取り除き、誰一人として幸せを制限されない、解放的な社会へ向かっていくために今、私たちのような若者の、積極的な考えが非常に重要になってくる。これまでの常識に囚われない、ユニークでダイナミックなアイディアを、私たちが生み出していくことによって、誰もが生きやすい社会、という「理想」が「現実」へと近づいてくるのだ。

私たちの未来は私たちがつくる。誰かに閉塞したような毎日を与える今とは違う。真っ新な開けた未来。誰もが自らの幸せを求めることのできる明るい未来。目まぐるしく変化する時代の流れの中で、私たちは変化の方向を明るいものにするために、叫ぶべきなのだ。私たちに固定概念はいらない。

「ＬＧＢＴ」の意味を解説！

「ＬＧＢＴ」とは、性的少数者を意味し、下記の頭文字を合わせた言葉です。多様性を尊重しましょう！

- **レズビアン（Ｌ）**
- **ゲイ（Ｇ）**
- **バイセクシュアル（Ｂ）**
- **トランスジェンダー（Ｔ）**

「ありがとう」がもたらす効果

「ありがとう」という言葉は、自尊心の高まり、ストレス減少、免疫の向上、良い人間関係の構築などをもたらすことが心理学の分野で実証されています。

日常生活の中で、感謝の気持ちを素直に表現することを、心がけてみましょう。